

# 調べ合い一緒に考える

## 文化祭で成果発表

### @奈良県立大淀高校

がんを知る

奈良県立大淀高校（奈良県大淀町）の1年4組は、県内の普通科高校で唯一の「看護・医療コース」。生徒たちは、がん専門医師から受けた特別授業をきっかけに、夏休みにも登校して「がん」について自分たちで調べ、成果を文化祭で発表しました。医師や看護師などそれぞれの夢に向け、生徒たちの努力が続きます。受けた授業は、日本対がん協会と朝日新聞社が主催する「ドクタービジット」。学校現場に医師や専門家を派遣して授業を行っています。

「（ドクタービジット）お聞きします。現在、日本では何人に一人が一生のうちにがんになるでしょうか？」

まだ残暑厳しい昨年の9月6日、奈良県大淀町役場に隣接する「あらかしホール」で、高校生3人が壇上から聴

り入れ、コースの特色を出していく計画だ。クラス替えはなく、1期生40人の生徒は、卒業に今年度、新設された。看護・医療に特化したカリキュラムはまだ始まっておらず、今回のドクタービジットが最初の取り組みになった。

今後も医療関係者らを講師として授業に招くほか、医療機関の見学や実習などを積極的に取

集まり、クラス全員で直前まで練り上げた研究成果を、同校の文化祭「友祭」で発表した。発表内容は「がん」をテーマにしたものだ。

衆に向かって問い合わせた。「がんは本人にきちんと伝えるのが今では一般的です。

医師は「一緒に闘いましょう」という気持ちを込めて告

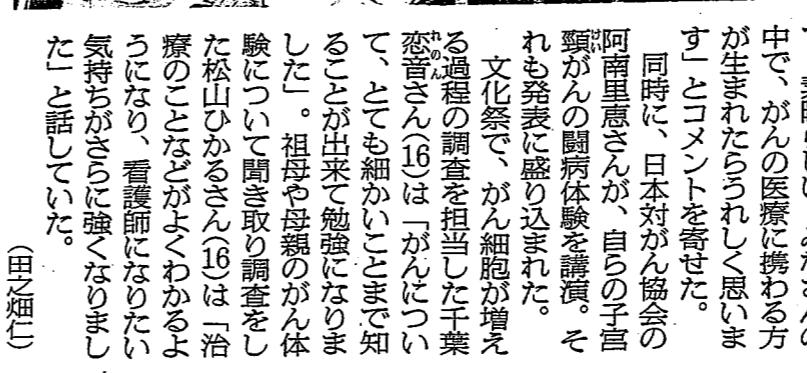
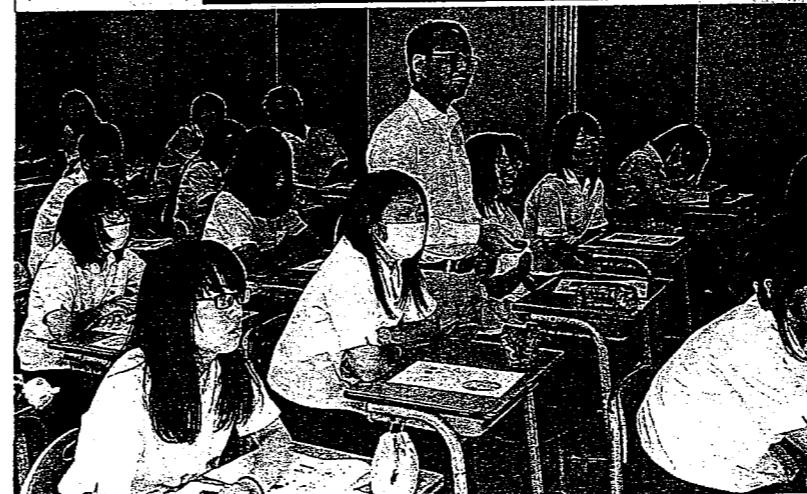
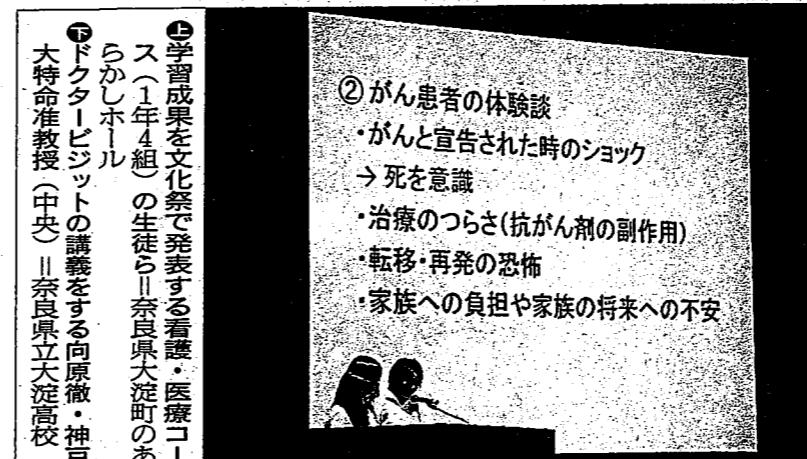
最後は1年4組全員がステージに上がり、大きな拍手を

たのがドクタービジット。3月前に1年4組を訪問した向原徹・神戸大特命准教授（腫瘍内科学）の特別授業だ

この発表のきっかけになっただのがドクタービジット。3月前に1年4組を訪問した向原徹・神戸大特命准教授（腫瘍内科学）の特別授業だ

親戚に聞き取りしたり、インターネットを使ったり。それの方法でがんのことを調べた。「医療については知らないことも多く、私自身も生徒と共に学びました」（担任の杉浦美千代教諭）

文化祭に向け、発表資料の最終チェックが8月末にあります。その資料を見た向原さんは「とてもよく勉強されていて、素晴らしい。みなさんの中で、がんの医療に携わる方が生まれたらうれしく思います」とコメントを寄せた。同時に、日本対がん協会の阿南里恵さんが、自らの子宮頸がんの闘病体験を講演。それを発表に盛り込まれた。文化祭で、がん細胞が増えた松山ひかるさん（16）は「治療のことなどがよくわかるようになり、看護師になりたい気持ちはさらに強くなりました」と話していた。（田之畑）



## 予防・検診の意識高めよう



向原徹 神戸大特命准教授



中川恵一 東京大医学部准教授

日本人の死因で多かったのは心臓病や脳卒中でした。その数はいずれも横ばいから減少に向かっています。それに代わって右肩上がりで増えているのが、がんです。少し古いデータですが、日本では年間約54万人ががんになります。約32万人ががんで亡くなります。身近な人を含める私たちもそういう時代を生きています。

将来、医療関係の仕事に就きたいと思っている人も多いと思いますが、どんな診療科に一生を終えるのは難しい

と思います。がん患者さんと一緒に過ごしていくこと

になると、がんとまつたく関わらず

になります。がん患者さんと一緒に過ごしていくこと

だと思います。がん患者さんと一緒に過ごしていくこと

だと思います。がん患者さんと一緒に過ごしていくこと